

鯉 錦 朗 拓

セ
ミ
ナ
ー

紅 白 編

第1回

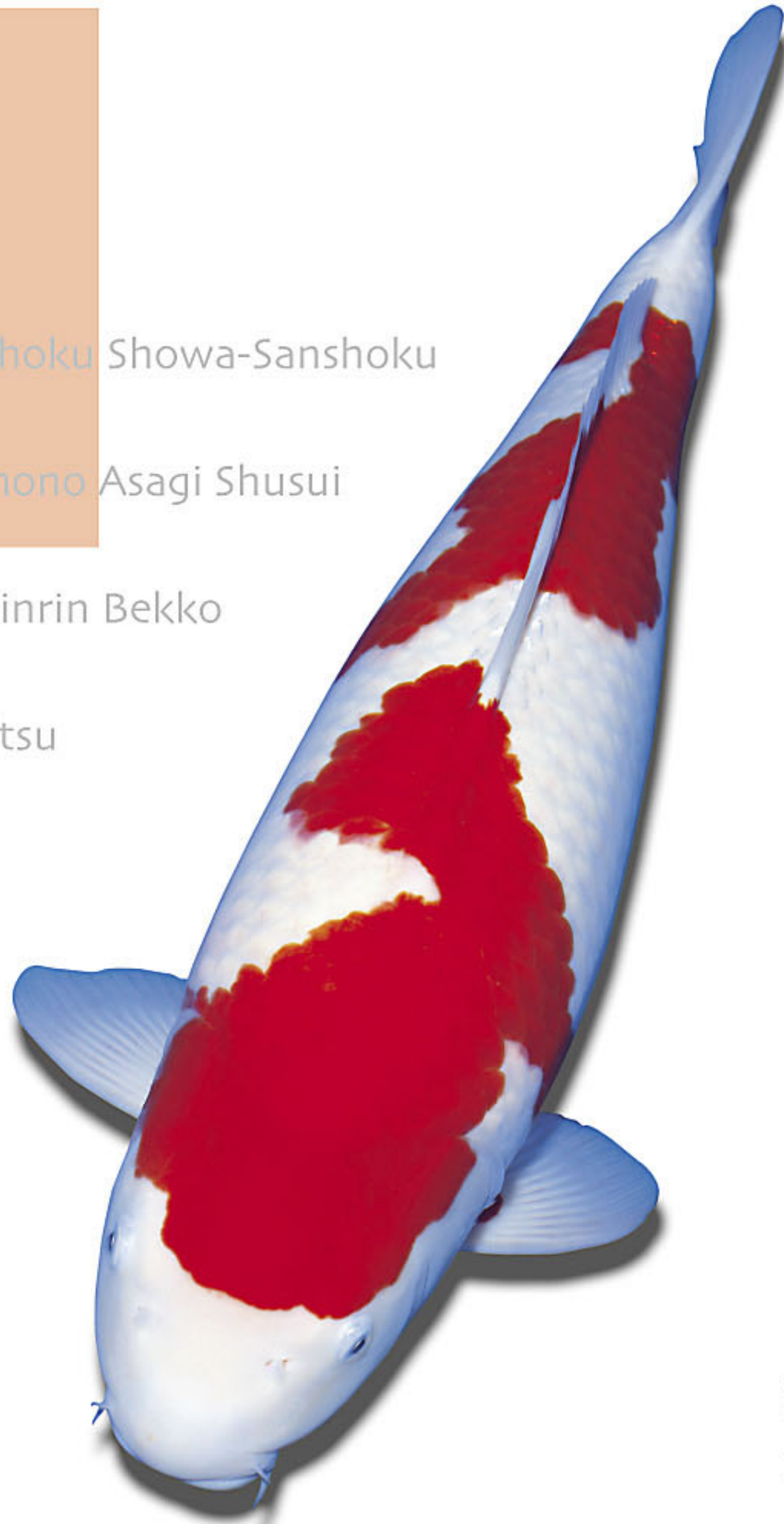
Kohaku Taisho-Sanshoku Showa-Sanshoku

Usturimono Hikarimono Asagi Shusui

Goshiki Kawarikoi Ginrin Bekko

Tancho Koromo Doitsu

Kujaku Kumonryu



人気企画・大菊拓朗（横浜錦鯉）の錦鯉セミナー。今回のテーマは『紅白』です。

第1回は紅白誕生の歴史、そして世界最大の紅白ブランドといえる阪井紅白の主力系統の子供たちを見ていきましょう。

まず最初に、紅白の歴史についておさらいしましょう。紅白は1804年から1824年ごろ、江戸末期に誕生したと言われています。真鯉から突然、頭の部分が赤い鯉が誕生して、それを交配した結果、現在の紅白に至っていると言われています。

もう一つ別のルートとしては、鳴海浅黄から出た水浅黄と、緋鯉から出た赤羽白を掛けて紅白が誕生したという説もあるのですが、浅黄を作っている人によると「紅白の模様は乗らない」ということなので、この説はあまり信憑性がないような気がします。

現在の綺麗な紅白ができるようになったのは明治21年ごろ、小千谷の蘭木^{うとぎ}の五助さんという人が、市場から買ってきた赤白の更紗^{さらさ}の鯉を交配したのが元になっていると言われています。

その後、友右衛門（ともいん）や仙助（せんすけ）、万蔵（まんぞう）、三九郎（さんくろう）といった紅白の主要系統が確立されて、その異系統同士の交配をしながら、現在の完成度の高い紅白ができるようになり

ました。

紅白は数多くの生産者が作っていますが、その中からいくつかの生産者と、系統鯉の変化の過程を見たいと思います。

突付ローズの仔 阪井紅白

最初は、紅白のブランドとして世界中で注目されている、広島県の阪井養魚場産の紅白の系統と親鯉、その子供の変化の過程を追ってみます。

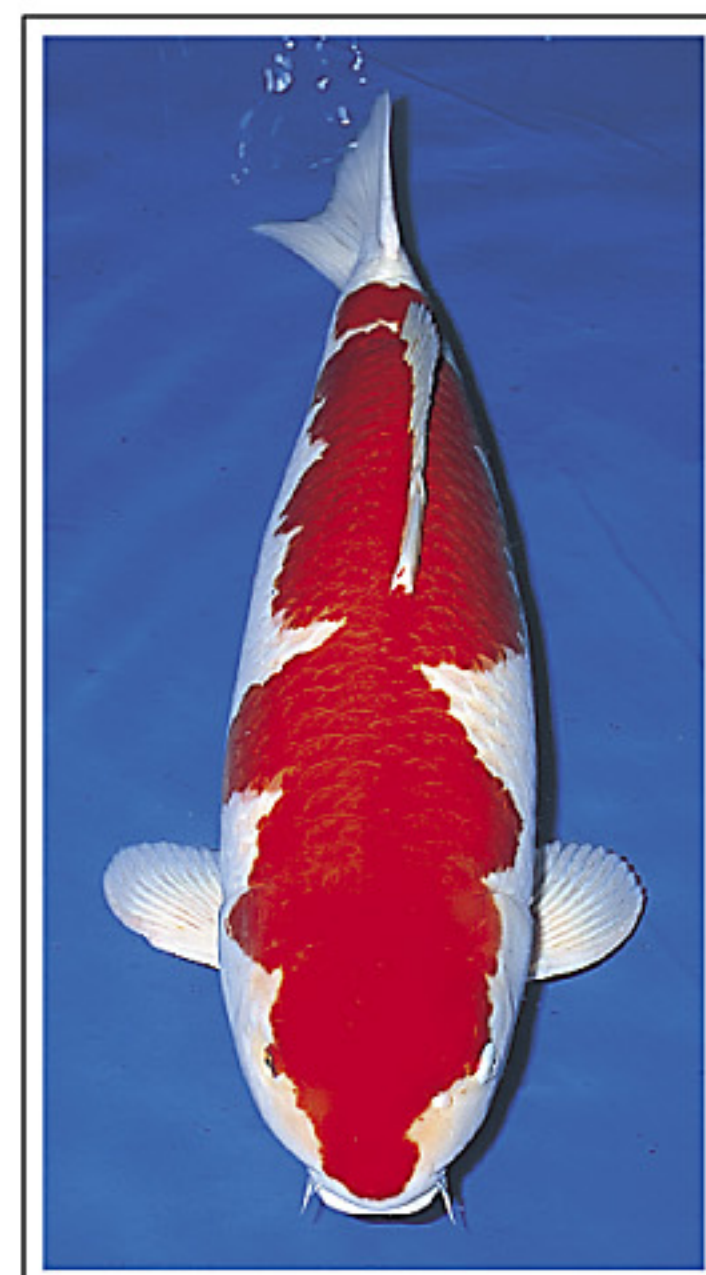
阪井紅白は「さくら」と「どんぐり」が元親になっていて、さくらから出た「ローズ」という鯉が、阪井紅白の主力を成すローズ系統の母体になっています。そのローズからは、「突付ローズ」「ビューティーローズ」「ローズクイーン」「市松ローズ」「ローズシンボル」といった鯉ができています。

ローズ系の特徴としては、紅が非常に独特であるということと、特に「突付ローズ」は体型が今までの紅白にはない「ズドン！」とした大砲型をしていて、特に腰のラインから下に肉が付いていて、尾筒が非常に太いという特徴があります。



突付ローズ

①／突付ローズの仔



では、その子供の変化の過程を見ていきたいと思います。
これは突付ローズの子供で、2才の時の写真です（①—A）。大きさは50cmちょっとで仕入れてきました。野池から揚げたばかりでしたので、まだ荒削りで肌も焼けている状態でした。ただ骨格的には、2才としては親の形質を受け継いでいる

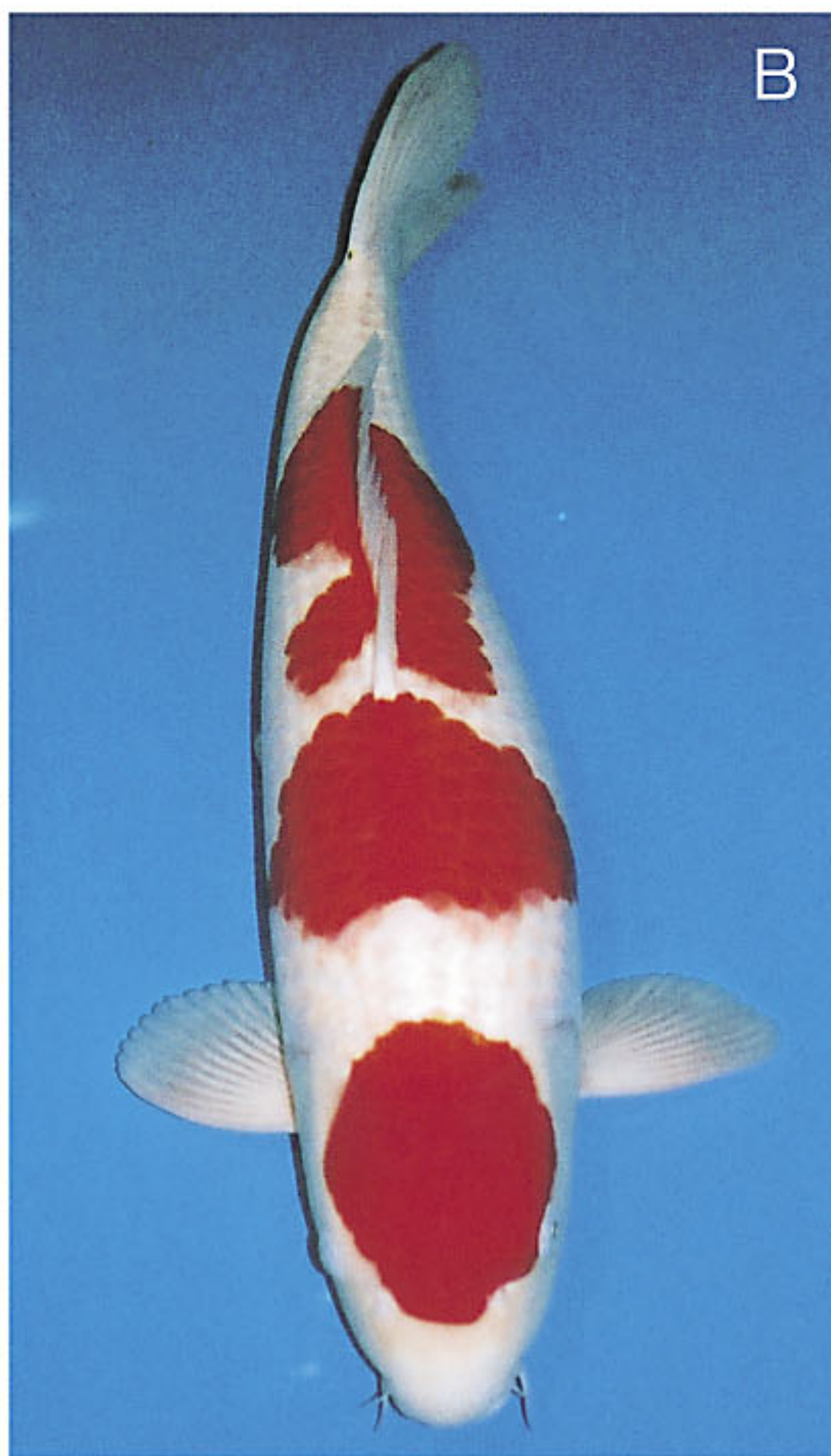
んじゃないかと思って求めてきました。腰のラインから尾筒の肉の入り方、そして独特の紅質が特徴的です。2才ですから鱗半分くらいのサシ（緋盤の前側）が残っていて、ちょっと滲んでいるような状態でした。

これを1年野池で立てて3才になった姿がこれです（①—B）。2才の時と比べると明らかに白地が抜けてきて綺麗になってきたのと、いっそう肉が入ってきたので胴回りや尾筒が太くなってきました。それと2才の時に少し滲んでいたサシの部分はだいぶ締まってきた、白地と紅との境界線がシャープになってきました。

ただ、まだこの時点では緋盤にムラというか透けがポツポツと出ています。これは成長期に出る鯉がいるのですが、この鯉も少しそれがありました。ではこれをもう1年飼うとどうなるかというと、4才の姿がこれです（①—C）。

緋盤のムラも解決したので、紅もよりいっそう厚みを増してきました。また、2才の時は少し重たい感じのガラでしたが、紅の切れ込み部分の白地が生きてきたことによっ

③／突付ローズの仔



②／突付ローズの仔

て、見られるような鯉になってきました。紅白の理想的な体型に近づいてきましたね。

次に①の姉妹鯉の変化の過程を見てみたいと思います。1才年下です。

これが2才の時です（②）。これもやはり野池揚げりの状態でしたので、まだサシが滲んでいる状態でした。ただ、二段であつても切れ込みが入っていて変化がある鯉ですから、大きく成長するにつれて模様としては魅力が出てくるのではないかなと思つて求めてきた鯉です。サシ込みなどが解決されるとかなりいい鯉になると思います。

これは残念ながら成長後の写真がないのですが、2才で50cmくらいだったのが、泉水飼育で5才で75cmになりました。ポリウムがかなり付いて、大人の鯉になりました。また、2才時と比べるとサシがかなり解決して、紅のほうに押してきている状態になりました。2才の時は白地の面積はあまり多くない感じでしたが、75cmになり、切れ込みが一つのガラになってきたので、模様としては生きてきていると思います。

次は突付ローズの最後の子供で2

才です（③—A）。突付ローズにしては少し細身でスラッとした体型の鯉だったので、かなり伸びるんじゃないかと思つて求めてきました。まだ2才で野池揚げりでしたので、サシも半枚ザシが多少残っています。が、緋盤の安定感はかなり洗練された鯉でした。これを1年立てて3才でこうなりました（③—B）。

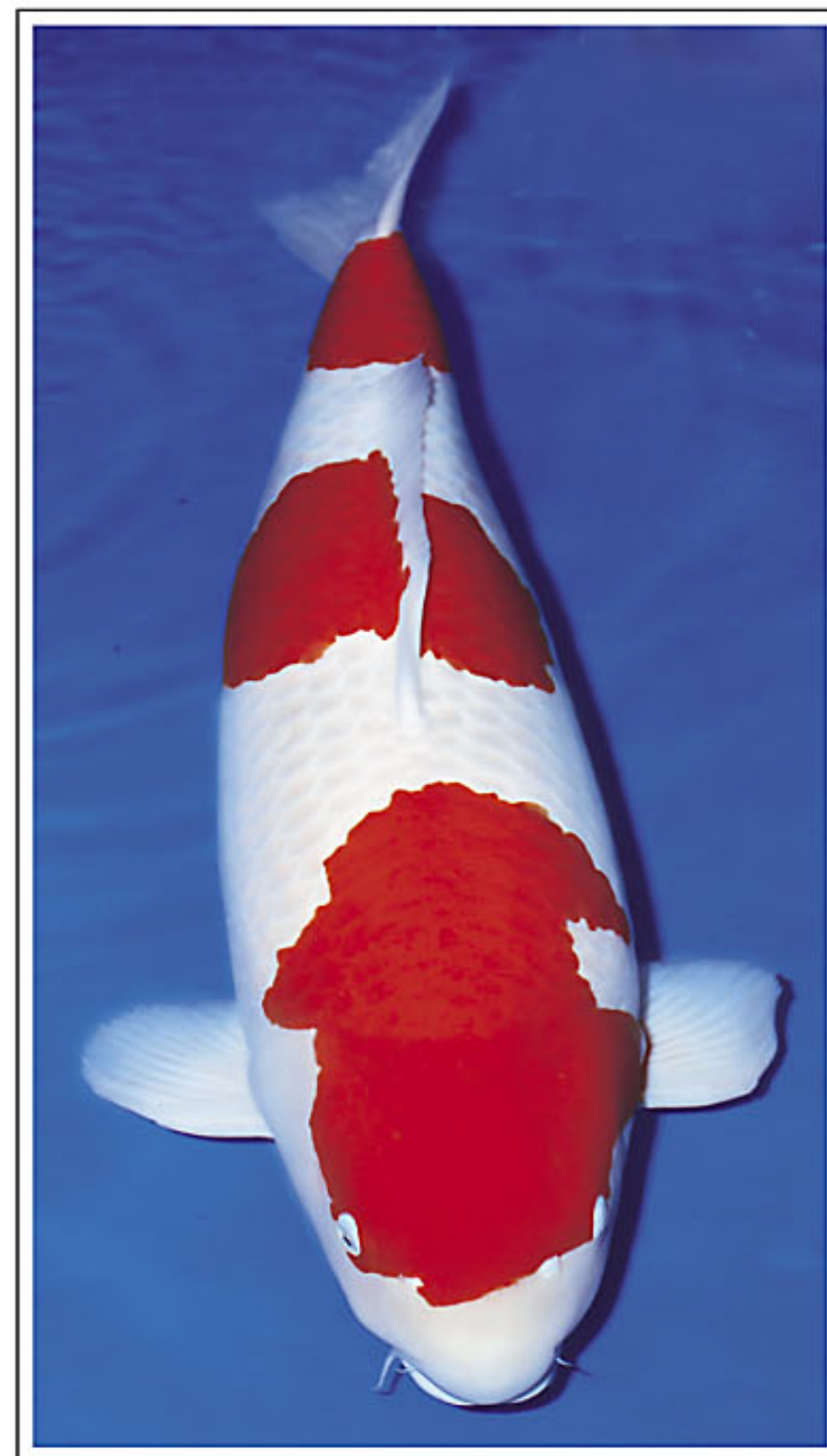
ポリウムが付いて、前ザシがかなり決まってきました。カッターナイフで切ったような感じに、シャープに緋が締まってきました。また、2才の時は少し細身かなという感じでしたが、ポリウムが付いたので頭部の丸点も生きてきました。2才の時は丸点と二段目の緋の間が少し寂しいと感じるかもしれませんが、十分良くなりました。

また、尾止めが軽すぎるかなという鯉であつても、3才になってこれだけ「巻き」が出てくると十分見られる鯉になるという典型ではないかと思っています。

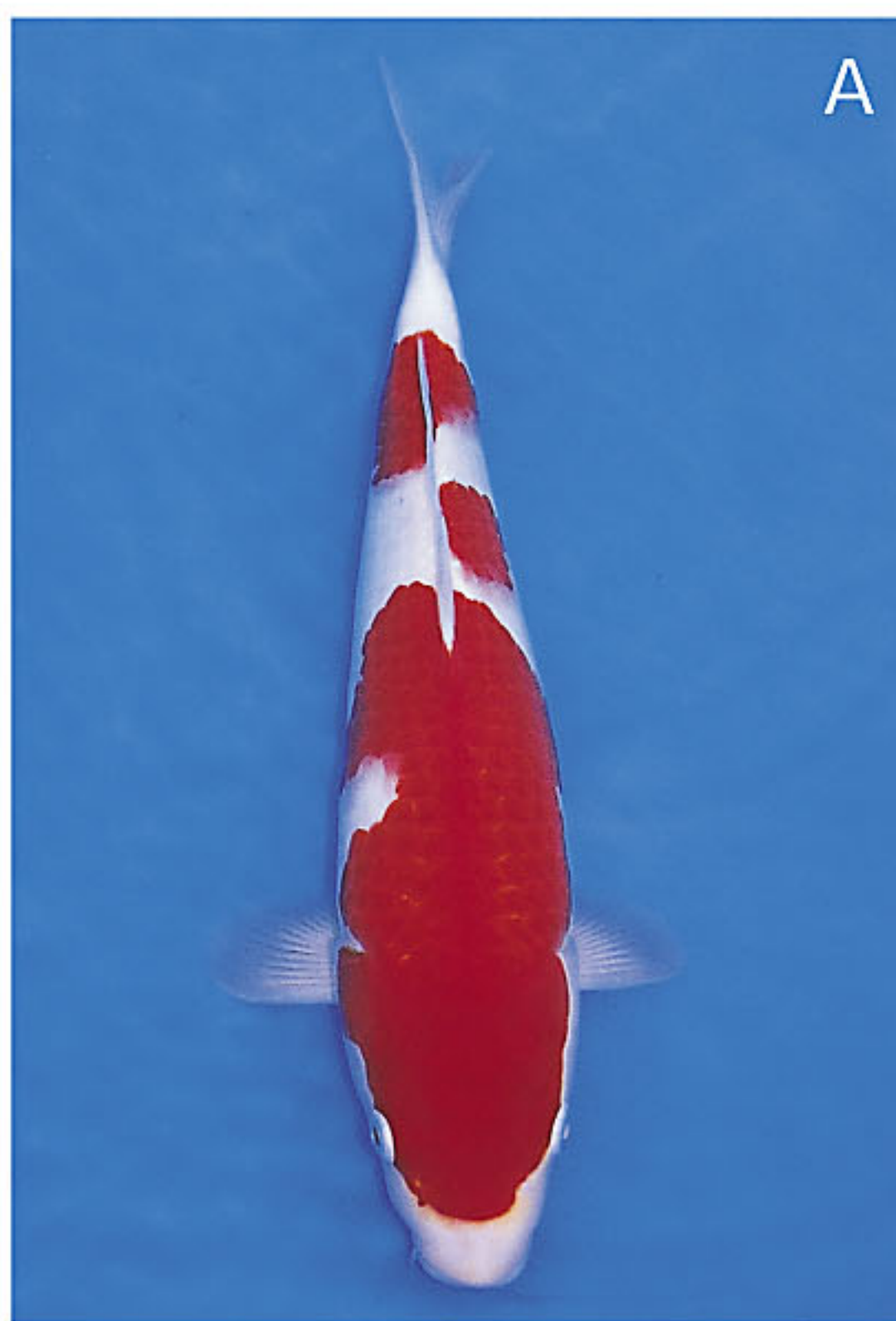
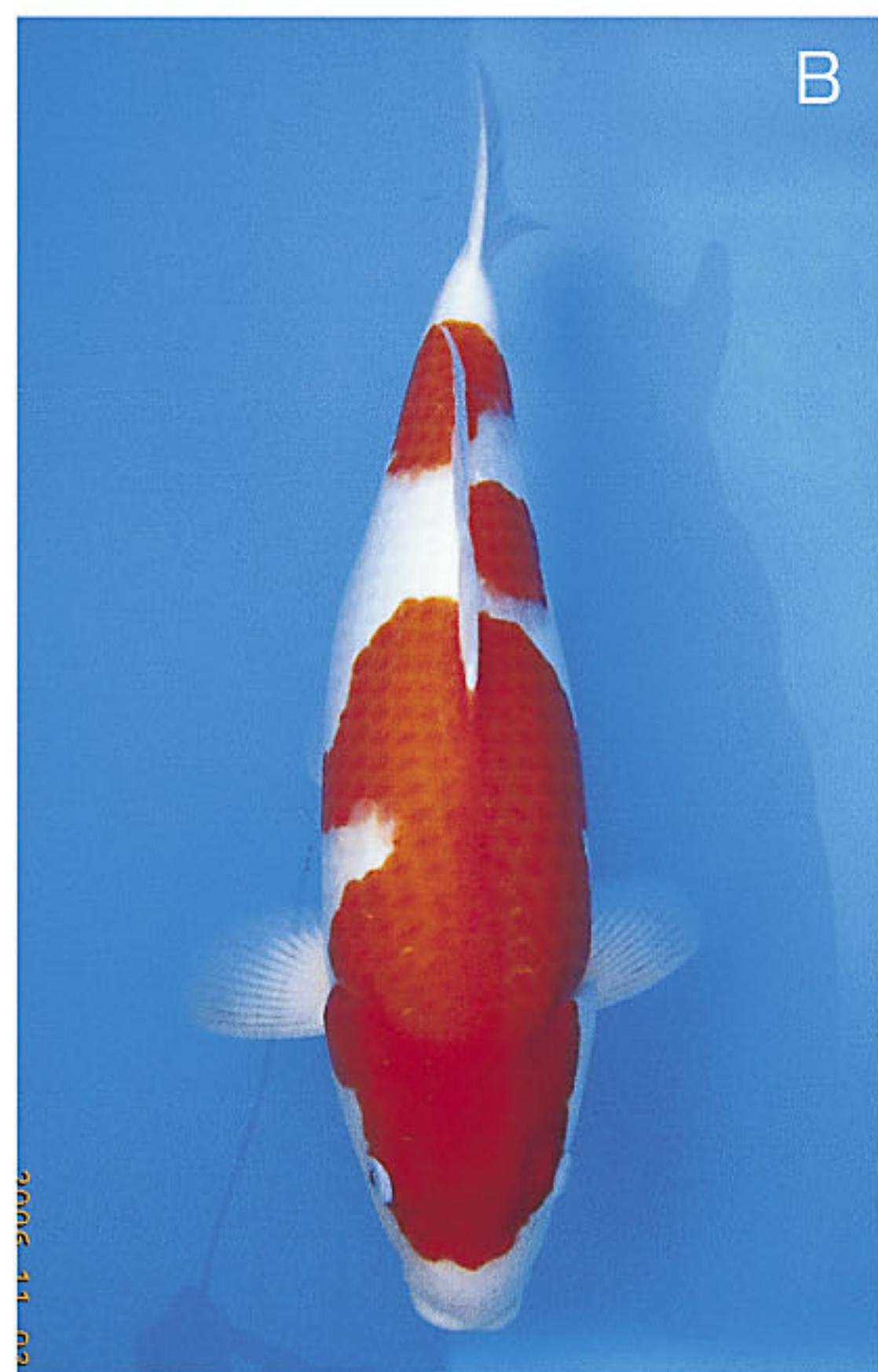
ローズシンボルの仔 反井紅白

突付ローズと姉妹なので、紅味と

④／ローズシンボルの仔



ローズシンボル



⑤／ローズシンボルの仔

体型の良さは共通する部分があると思います。突付ローズと比べると素直な体型で、ローズ系のもともとの親の形質を一番受け継いでいる鯉ではないかと思っています。

これはローズシンボルの仔の当才魚群です(④—A)。中央の1本に注目して変化を見てみたいと思います。春の野池に放す前で、35cmくら

いだと思います。

他の兄弟と比べてみると、背びれの波立ってから口までがとても長いですね。こういう鯉は伸びると言われています。緋盤は5匹の中では一番薄いオレンジ系の紅なので、後から決まってくると面白くなる、そんな感じの鯉だと思います。では、これを泥池で立てて、2才になるとどうなるかというところ、こうなりました

(④—B)。

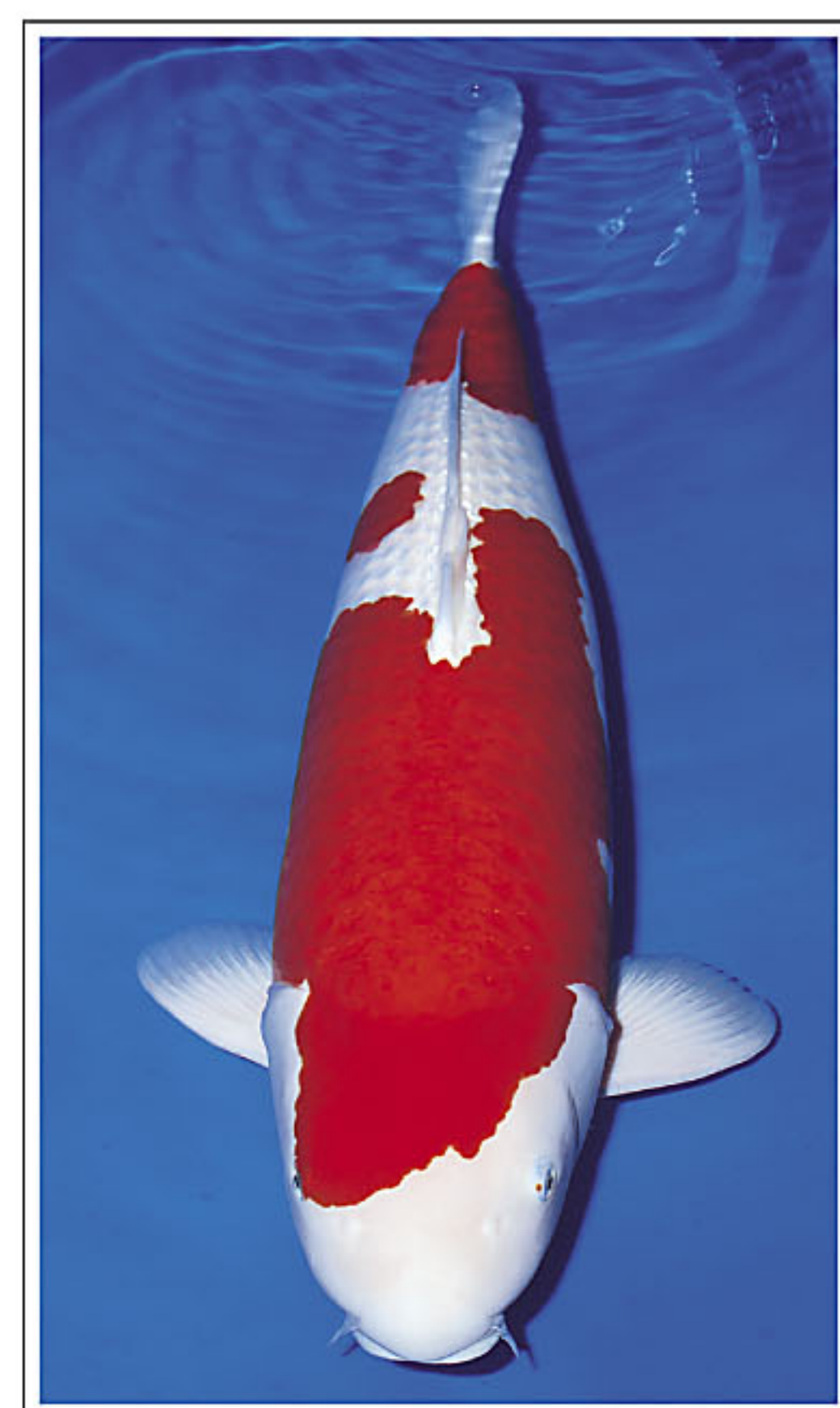
55cmくらいになり、目幅のところや後半にしっかりと肉が入ってきました。単純な二段模様ですが、切れ込みも少しずつ白地を見せてきたので、模様がこれでも見られるような鯉になってきました。2才ですからそこまで紅は揚がったというわけではありませんが、鱗一つ一つを見ると「星」と言って、芯にしっかりと濃い部分を持っている紅です。全体で見れば薄い紅ですが、大きくなってから厚みを増してきますので、3才4才になればサシが解決されて綺麗な鯉になっていくのでは…:と思っていますところ、3才の姿がこれです(④—C)。予想以上に良くなりました。



⑥／ローズシンボルの仔



⑦／ニューシンボルの仔



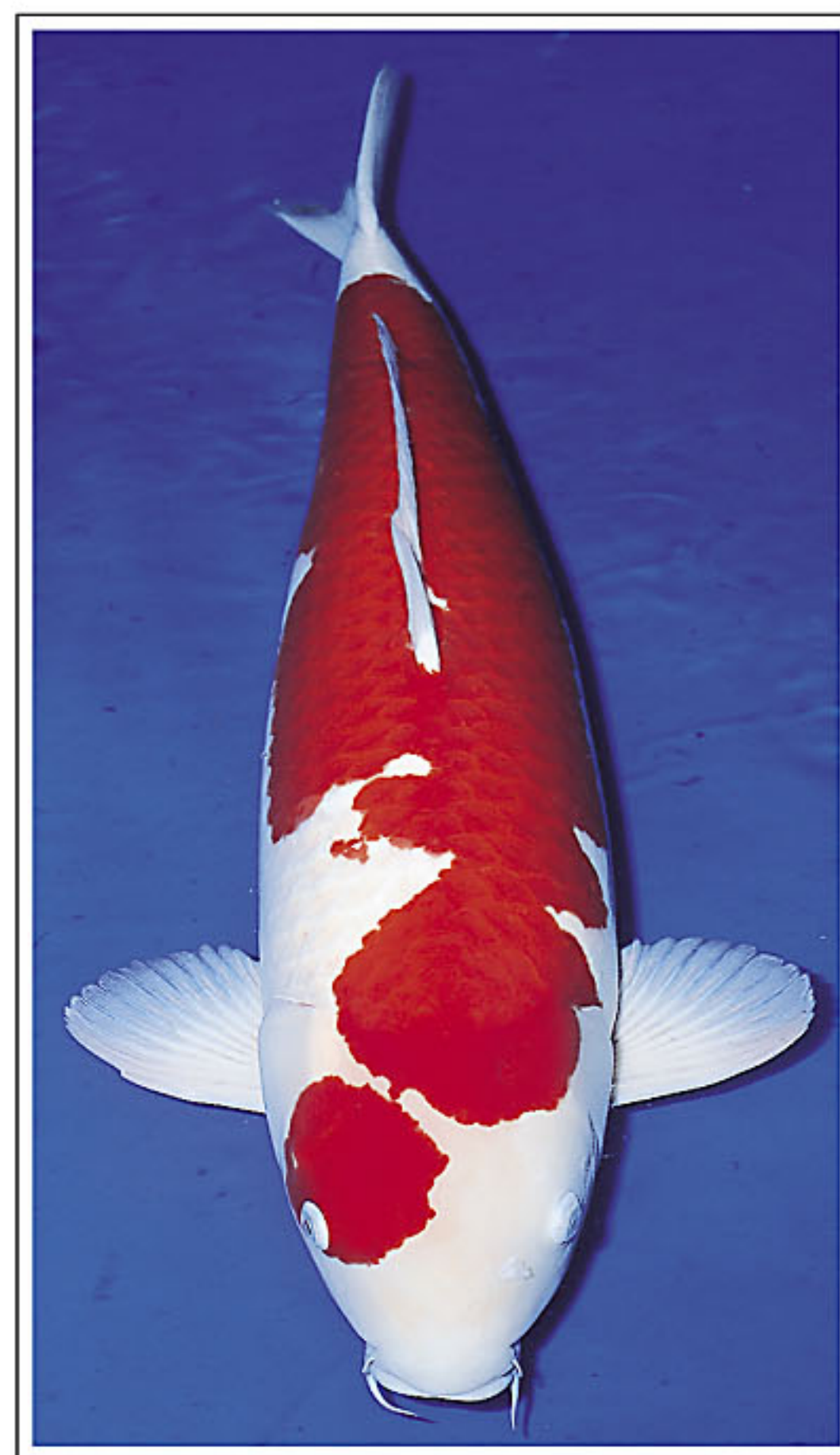
ニューシンボル



次も同じくローズシンボルの仔です（⑤―A）。これは先ほどの鯉とは紅味が全く違うんですが、メス親に非常に良く似た独特の厚みのあるピンク紅をしています。これは当才の時の写真で、だいたい30cmくらいの大きさでした。模様も芸のある二段・三段という感じです。大きくすればするほど切れ込みや白地が生きてきて、面白みが出てくる鯉ではないかなと思います。ただ、まだ当才ですのだから深いサシでした。この鯉を1年飼うと2才でこうなりました（⑤―B）。

50cmぐらいです。当才の時は色揚げを目一杯やっていたので真っ赤でしたが、自然な色合いになって肉もかなり入ってきました。白地もスカッと抜けて、深かったサシもだいぶ狭まってきて半分ぐらいになりました。これも2年、3年とさらに立てていけば、サシも解決されて魅力が出てくるのではないかと思います。

次は模様が独特な三段（⑥―A）ですが、ちょっと変わった感じの紅白でした。体型がすごく良かったので、これは大きくなると思って当才で仕入れてきました。まだ肌がか



紅華子



⑧／紅華子の仔

なり黄ばんでいる状態でオスのように見えますが、こういう肌は特に当才の時期であれば気にしなくてもいいと思います。サシもあまり深くなくシャープな感じですので、早くに仕上がる鯉ではないかなと思います。これを1年立てて2才でこうなりました(⑥―B)。

かなりポリウムが付き、紅も自然な色で、肌もあれだけ黄ばんでいたのがこんなに綺麗に抜けてきました。サシもほとんど解決しています。そしてこれが3才の姿です(⑥―C)。サシもキワも完全に仕上がりしました。

ニューシンボルの仔

「ニューシンボル」はローズシンボルの子供になりますので、こういう感じの紅味になるんだ、将来こういう感じになるんだという予測が付くのではないかと思います。

この親鯉は背割れであることが特徴です。背ビレのところで緋が割れて、背ビレを全く汚していない。いわば、一番原種から遠のいている鯉なので、模様を追いかける生産者は

こういうところを見て組み合わせたりします。それだけ洗練された鯉と言えるでしょう。紅も非常に進化した紅質をしています。

それでは、これの子供はどんなものが出るのでしょうか。

これが当才の時の姿です(⑦―A)。メス親はこれだけ派手な鯉でしたが、当才は意外と地味でした。でも体型が非常に素直です。これも背ビレの波立ってから口までが長いですね。あとは背割れという親と同じ特徴を持っています。

私は鯉を仕入れるとき、「親に良く似た形質を持っているかどうか」ということを一番気にします。特徴が出ているとそれっぽくなるんじゃないかなと踏んで買ってきた鯉です。当才の時、唯一鶴田さんだけが絶賛してくれた鯉でした(笑)。

これは地味だったので当才の時は残念ながら売れなくて、野池で立たかかといいますが、こうなりました(⑦―B)。

ポリウムが付き、サシが結構深かったのが綺麗に締まってきて、白地も上品にのぞいています。そして

⑧／紅華子の仔



紅にテリが増して、ツヤのある紅白になってきました。これももう1年、2年と飼い込んでいって肉が入って白地が生きてくると、さらに魅力を発揮してくれる鯉になるんじゃないかなと思います。

それとこの鯉の特徴なのですが、背中に鉄筋棒を1本入れたような感じで、当才のうちは背コケのように



見えるかもしれませんが、こういう鯉は比較的腹に來ないので。ブリッジがしっかりしているという人もいます。骨太の鯉なので、これから先、大くなる要素を十分に持っていると思います。

紅華子の仔 阪井紅白

次は「どんぐり」を元親にもつ、有名な「紅花」という鯉からできた「紅華子」の仔を見ていきます。紅華子の特徴は非常に伸びやかな体型をしていることと、仙助系の特徴にしている鯉でしたので、独特のオレンジ系の紅をしていました。

吉識さんの紅白で、二段模様の当才です(⑧―A)。何の変哲もないと思われるかもしれませんが、サシも1枚以上の深いサシです。これを1年泥池に入れますと、2才でこうなりました(⑧―B)。ポリウムが付いてきて、サシが半分ぐらいに縮小しています。単純な二段ですが、ポリウムが付いたぶん、白地が出てきて見える鯉になってきました。

これをもう1年立てた3才の姿がこれです(⑧―C)。さらにポリウ

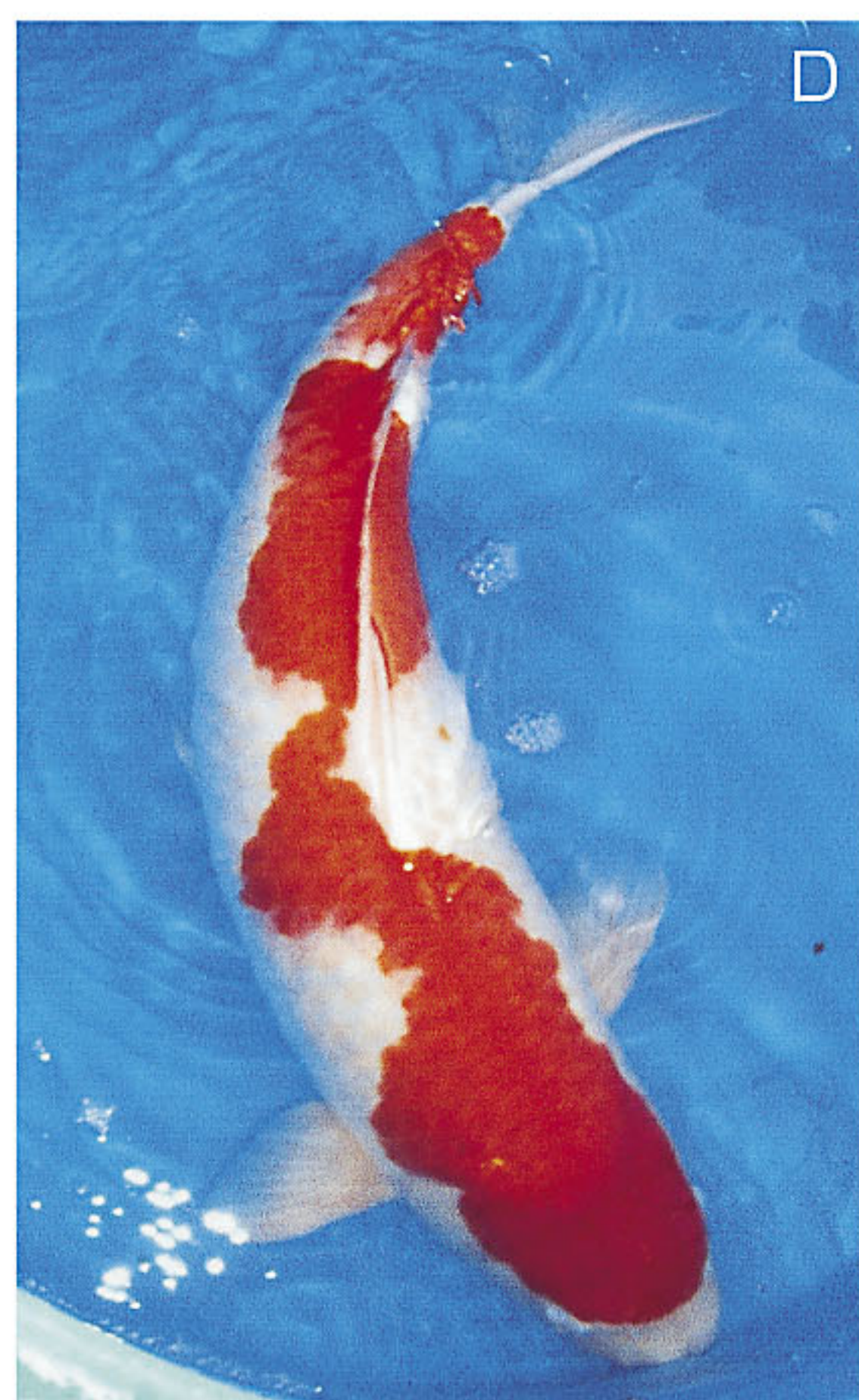
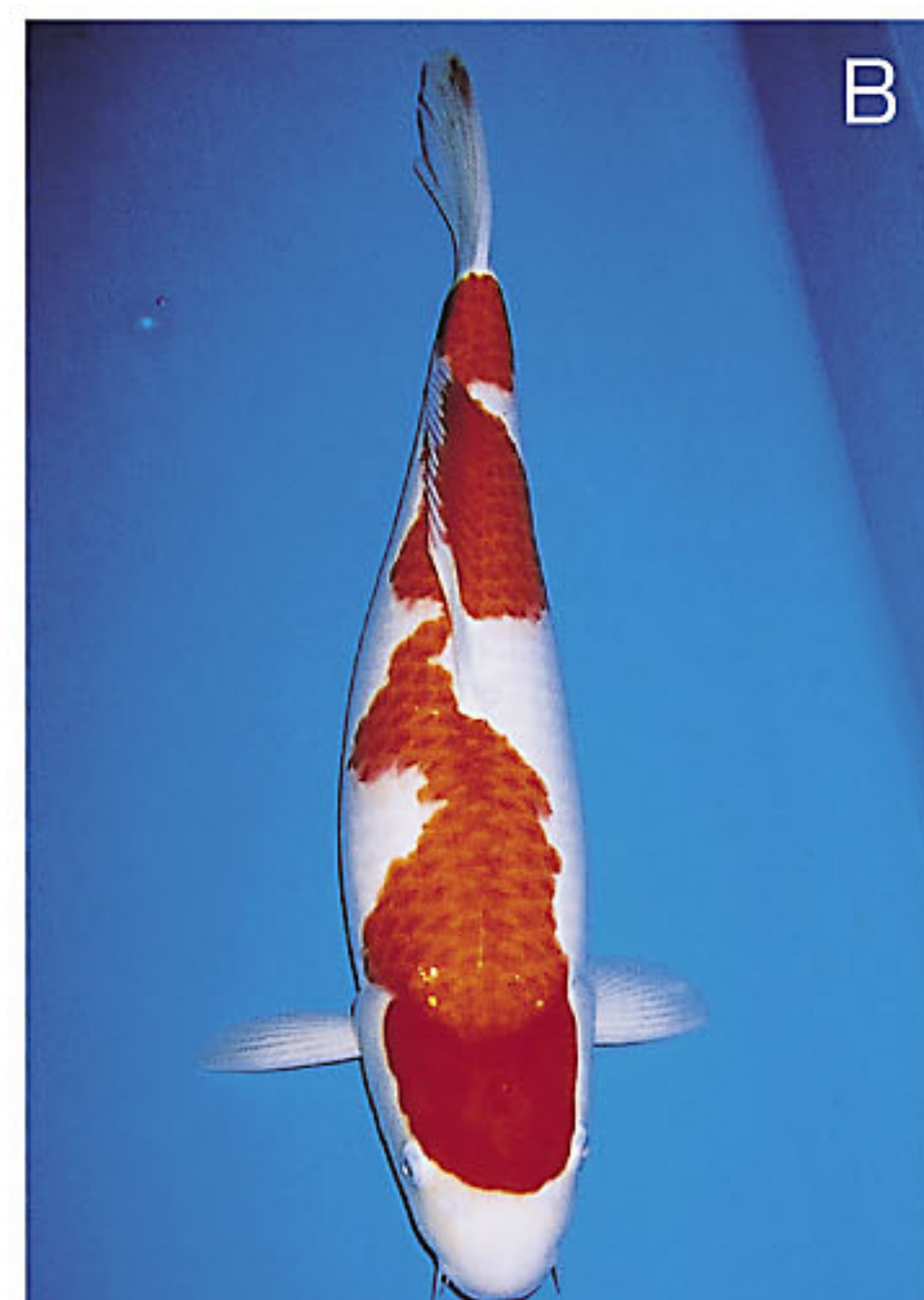
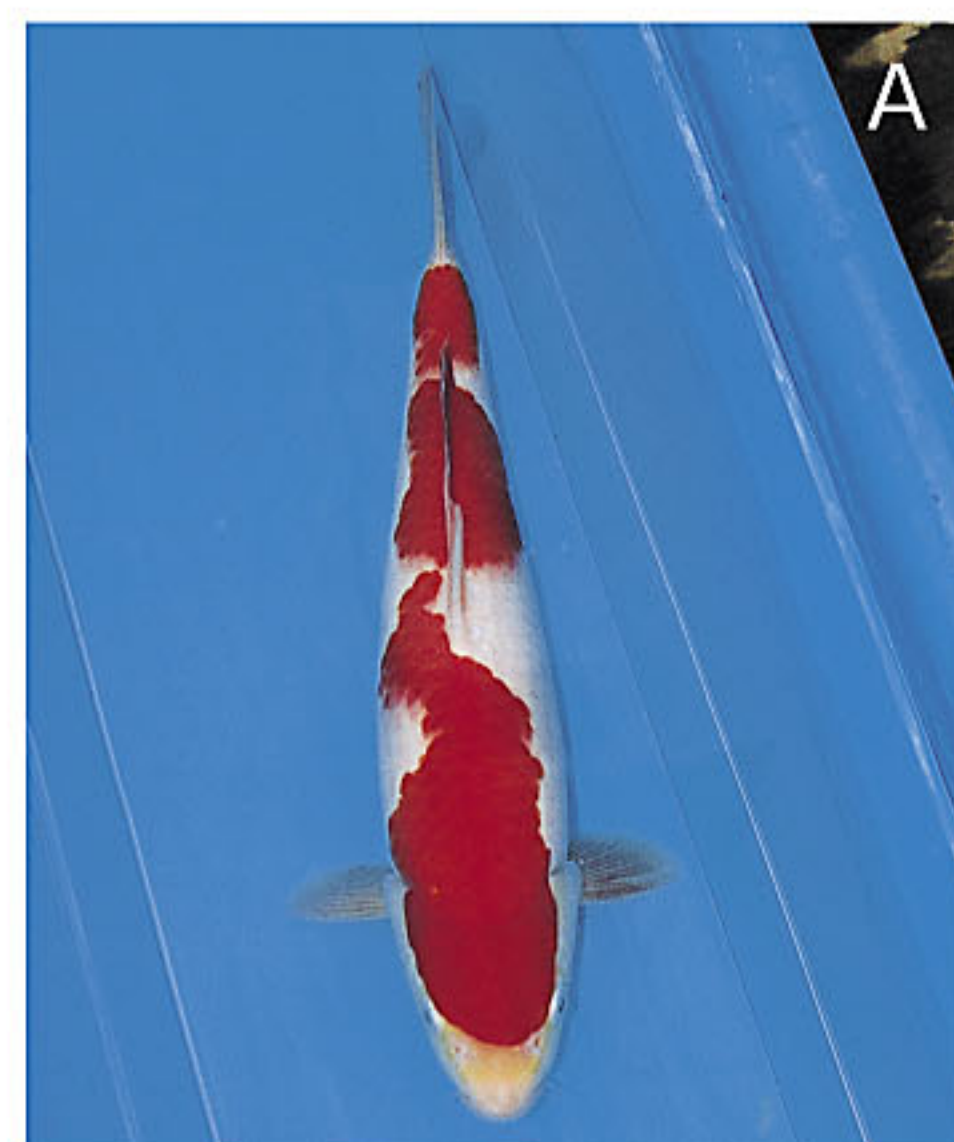
ームが付いたのと、サシがもっと締まってきてかなり綺麗に、錦鯉らしくなってきましたね。そしてこれが半年後、野池揚げりの秋の時点の写真です(⑧―D)。70cmぐらいですが、紅の厚みが増してきたのと、キワも綺麗に決まってきました。ポリウムがかなり付いたので、白地も生きてきました。

さらに半年後、春の姿がこれです(⑧―E)。冬場に餌を切っていたので素直な体型に戻りましたが、かなりキワとサシが綺麗になってきているので、鯉として良い評価をいただけるようになってきました。

そしてこれが、4才の秋の揚げりです(⑧―F)。紅が揚がってきて厚みを増してきました。オレンジ系の紅でしたから、厚みが増せば増すほど味が出てくる鯉じゃないかなと思います。

もう1年立てた5才の時の姿です(⑧―G)。しっかりと覆鱗が出てきて、かなり重量感のある鯉に仕上がってきました。

次は森永さんの鯉です。これは当才で37cm、細身でかなりサシも深い鯉でした(⑨―A)。まだ緋盤も薄



⑨／紅華子の仔

く、鼻先も黄ばんでいます。

これを1年立てて、2才ではこうなりました(⑨―B)。写真ではちよつと曲がっていますが、サシがかなり改善されています。かなり伸びて60cm超くらいで揚がってきたので、緋が少し薄くムラっ気が見えますが、先ほども言いましたが「星」がしっかりとっている鯉ですので、こういうのはあとから決まってきました。その決まってきた証拠が翌年の姿です(⑨―C)。しっかりと紅が揚がって厚みを増して、ポリウムも出てきました。

そしてこれは野池に入れる直前です(⑨―D)。冬場はかなり白地が抜けて、綺麗になってきました。さらに4才になると頬に肉が入り、大

人っぽい顔つきになりました(⑨―E)。

ルビーの仔 阪井紅白

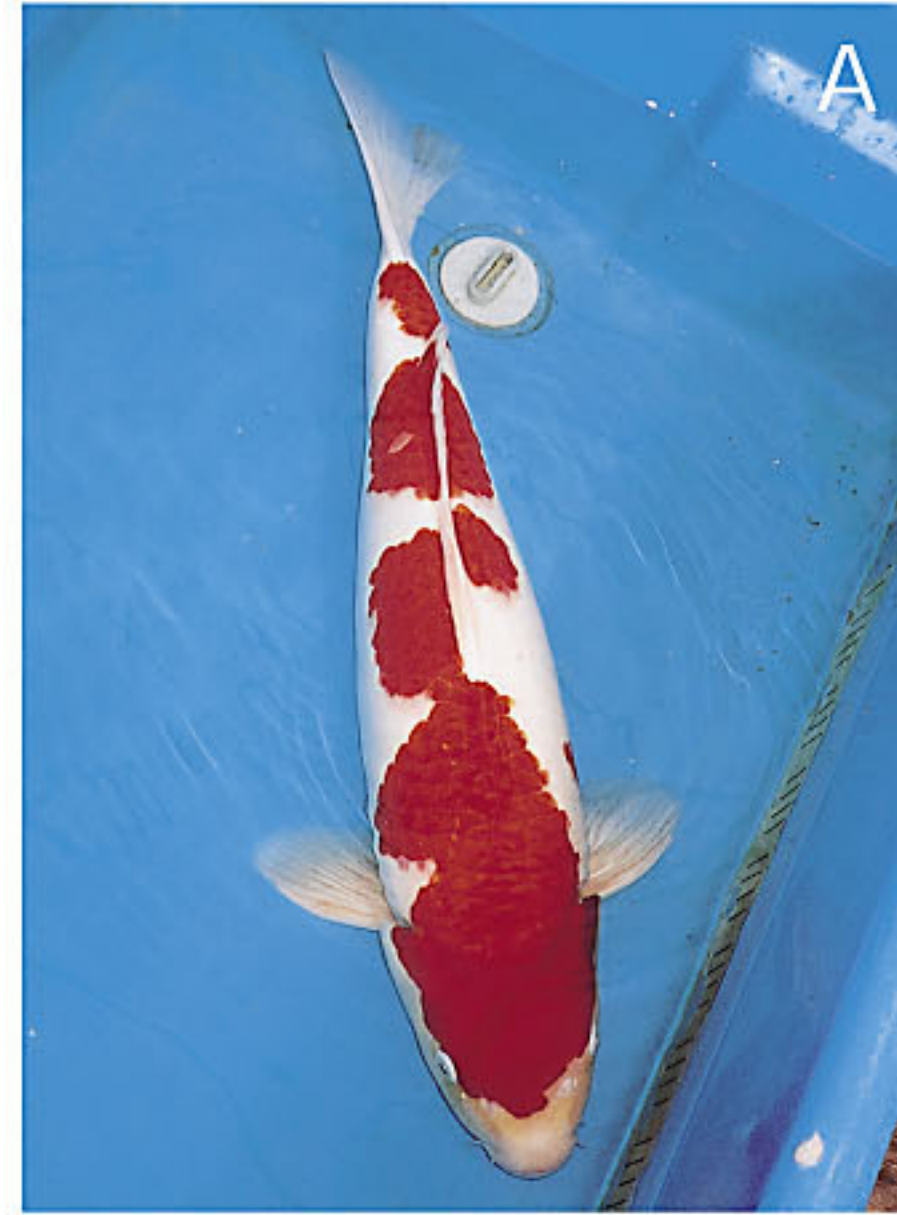
「ルビー」は突付ローズの子供になります。特徴としては蛍光色の紅で、白地から浮き出てきたような、色紙を1枚貼ったような感じの独特の紅を持つ鯉でした。

これが2才のルビーの子供です(⑩―A)。体型的には細身ですが、素直な体型と模様の面白さで求めた鯉です。サシはまだ半枚ザシぐらい残っていますね。私が仕入れる時に気を付けることとして、立て鯉を見るときには尾止めの緋を一番大事にしているのですが、これは尾止めの緋と尾止めのサシがしっかりとっている鯉でした。

これを1年立てて3才になるとこうなりました(⑩―B)。サシも綺麗に決まって、紅も狙ったとおり浮き出てくるような紅質に仕上がってポリウムも増して、3才65cmで揚がってきました。そしてこれが4才、75cmです(⑩―C)。完璧と言っていいでしょう。



ルビー



⑩／ルビーの仔

ビューティースマイルの仔

ローズ系統の「ビューティースマイル」から生まれた「ビューティースマイル」の子供を見てみようと思います。

ビューティースマイルの特徴は体型がすごく良いということです。体長も90cm以上ありました。紅白でこれだけ大きい親鯉はなかなかいません。ガッチリとした鯉でした。

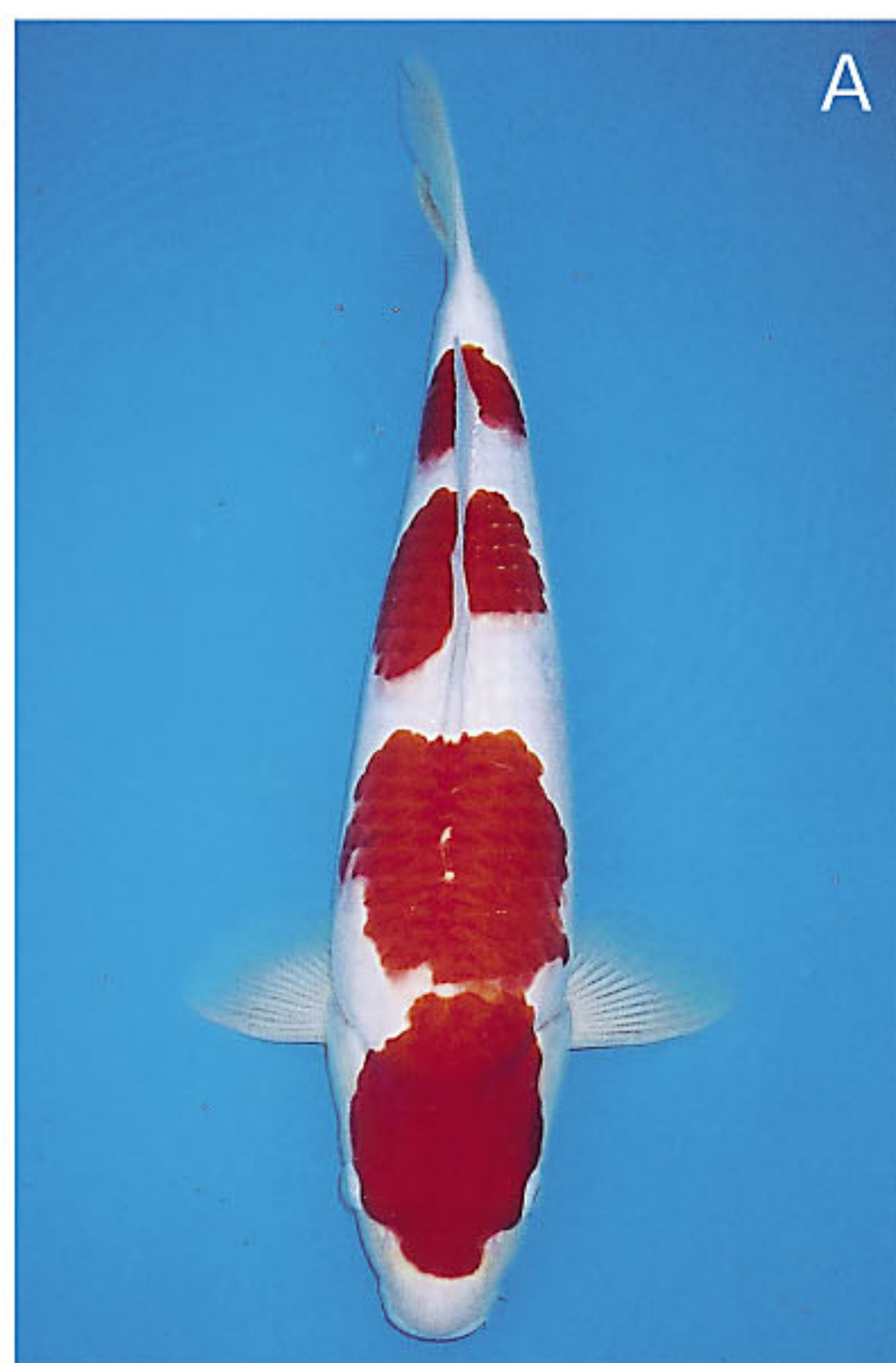
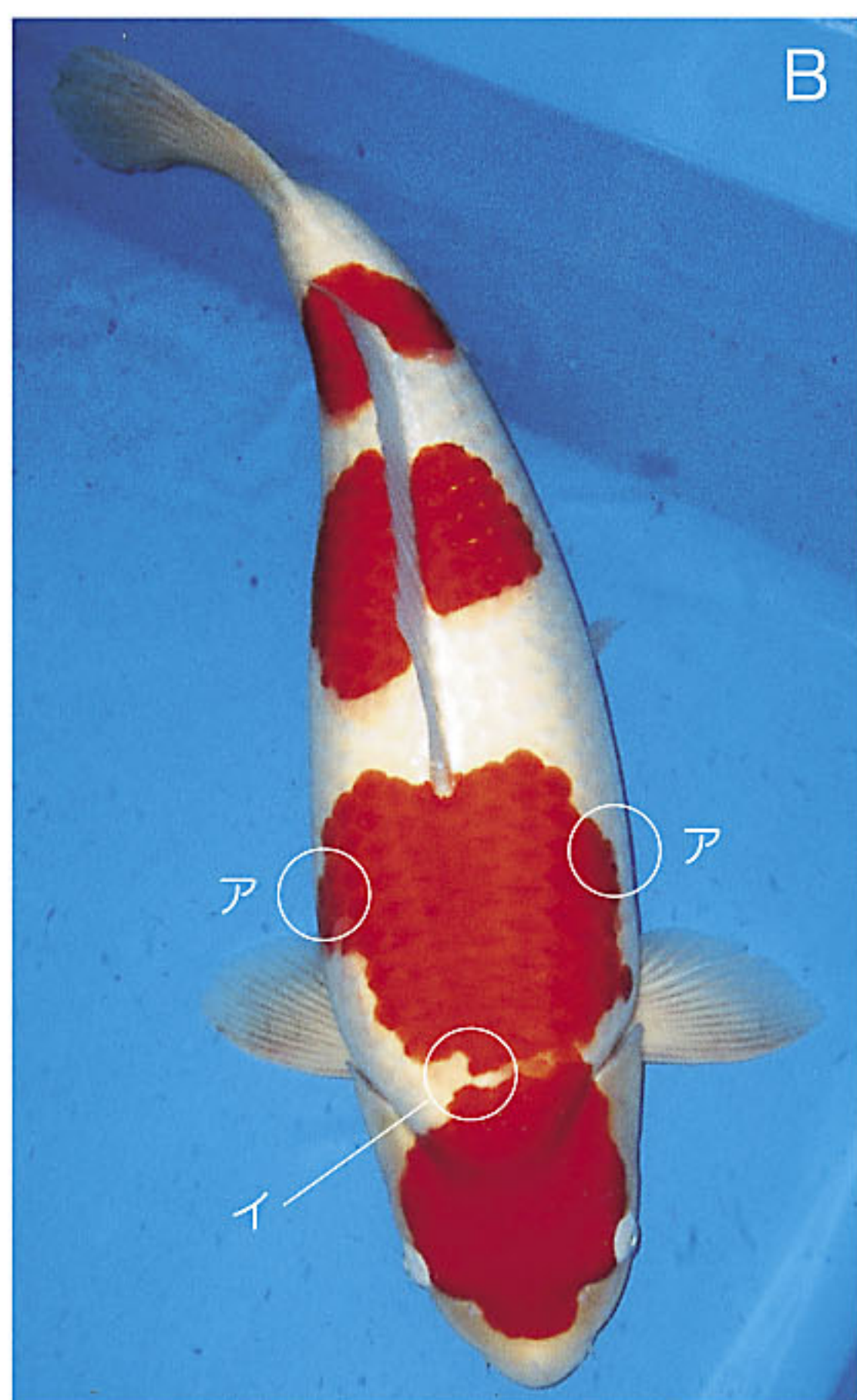
これが2才のビューティースマイルの仔です(⑪—A)。親鯉に似ず、すごく細身で、一見すると何となく頼りないなと思われるかもしれませんが、私はすごく魅力のある立て鯉だと思いました。注目してもらいたいのは、各パーツの作りです。顔の作り、口の作り、手の作り、尾止めの作り、そして尾筒の肉の入り方を見てください。尾止めまで素直に肉が入っているという感じです。

大きくなってから大成する鯉というのは2才の時は比較的細身で、全体的に体の各パーツのバランスが取れているのが良いとされますが、これもそういう鯉でした。サシも1枚

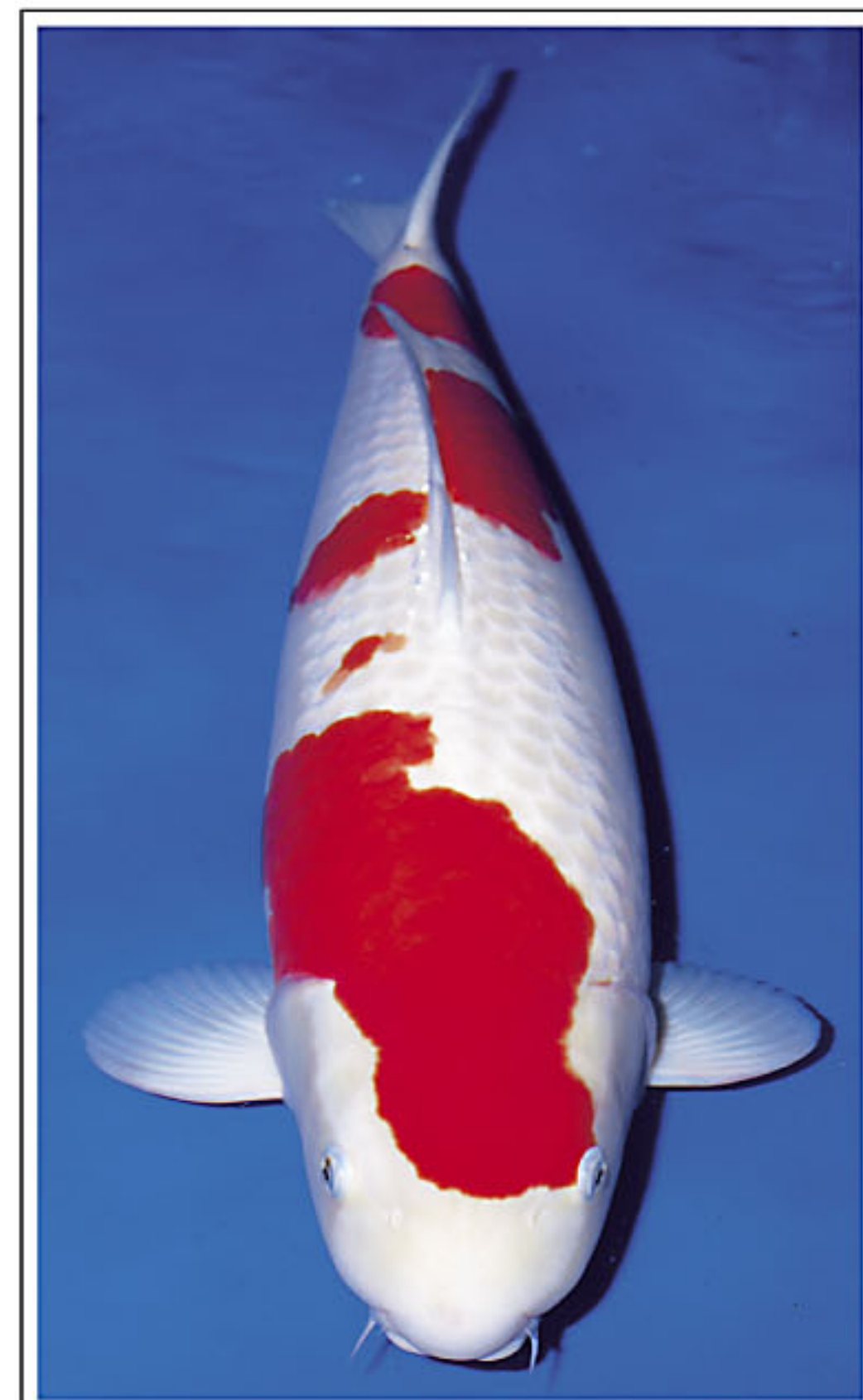
ザシくらいはありましたが……。

これを立ててみるとかなり変わるんじゃないかと思っただけですが、変わりすぎました(笑)。こうなりました(⑪—B)。これが3才の姿です。かなりボリュームが付いたので、イメージ以上の鯉になりました。サシも綺麗に解決して締まってきました。顔の幅も細かったのですが、目幅のある鯉ですので、その幅が3才になって生きてきました。

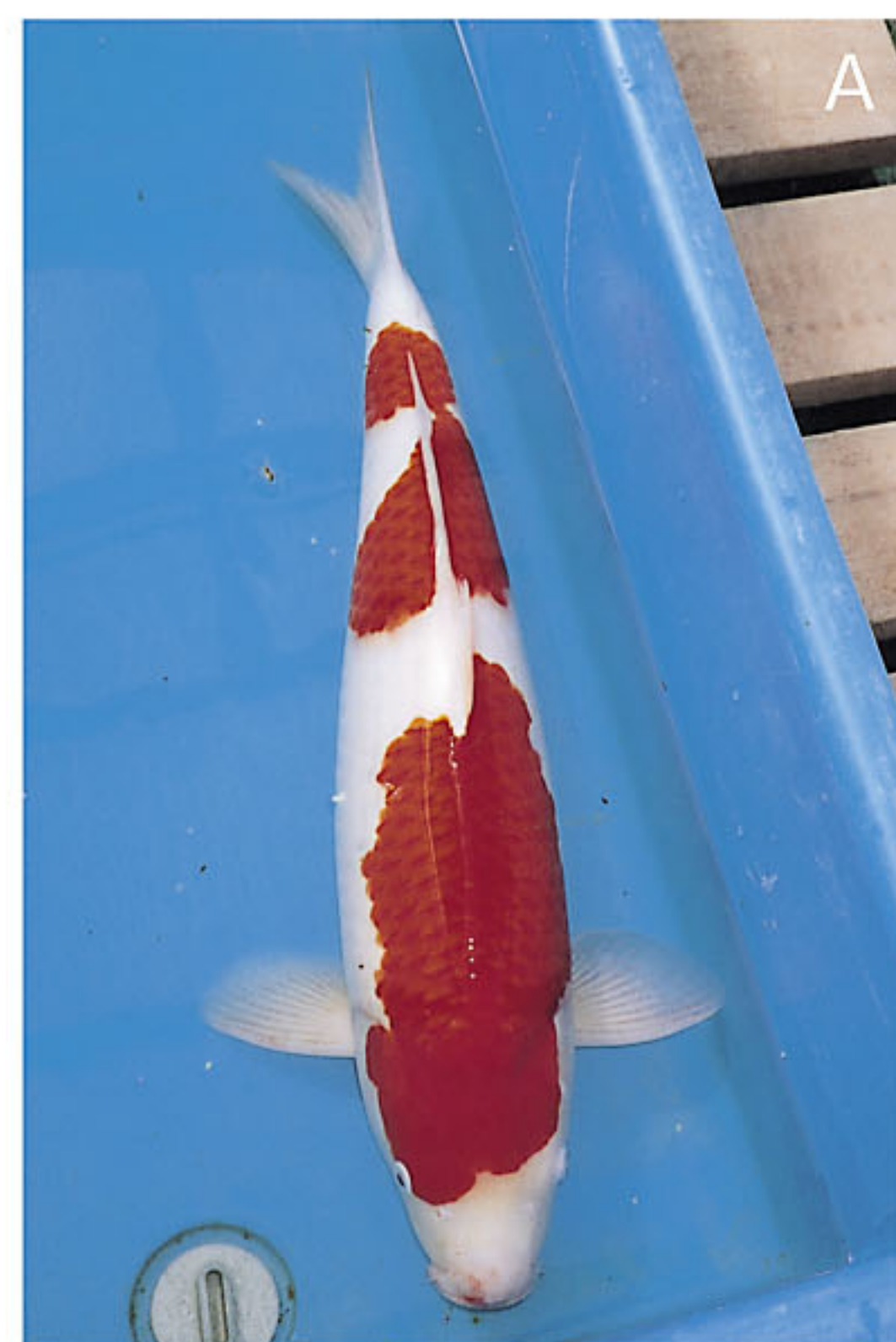
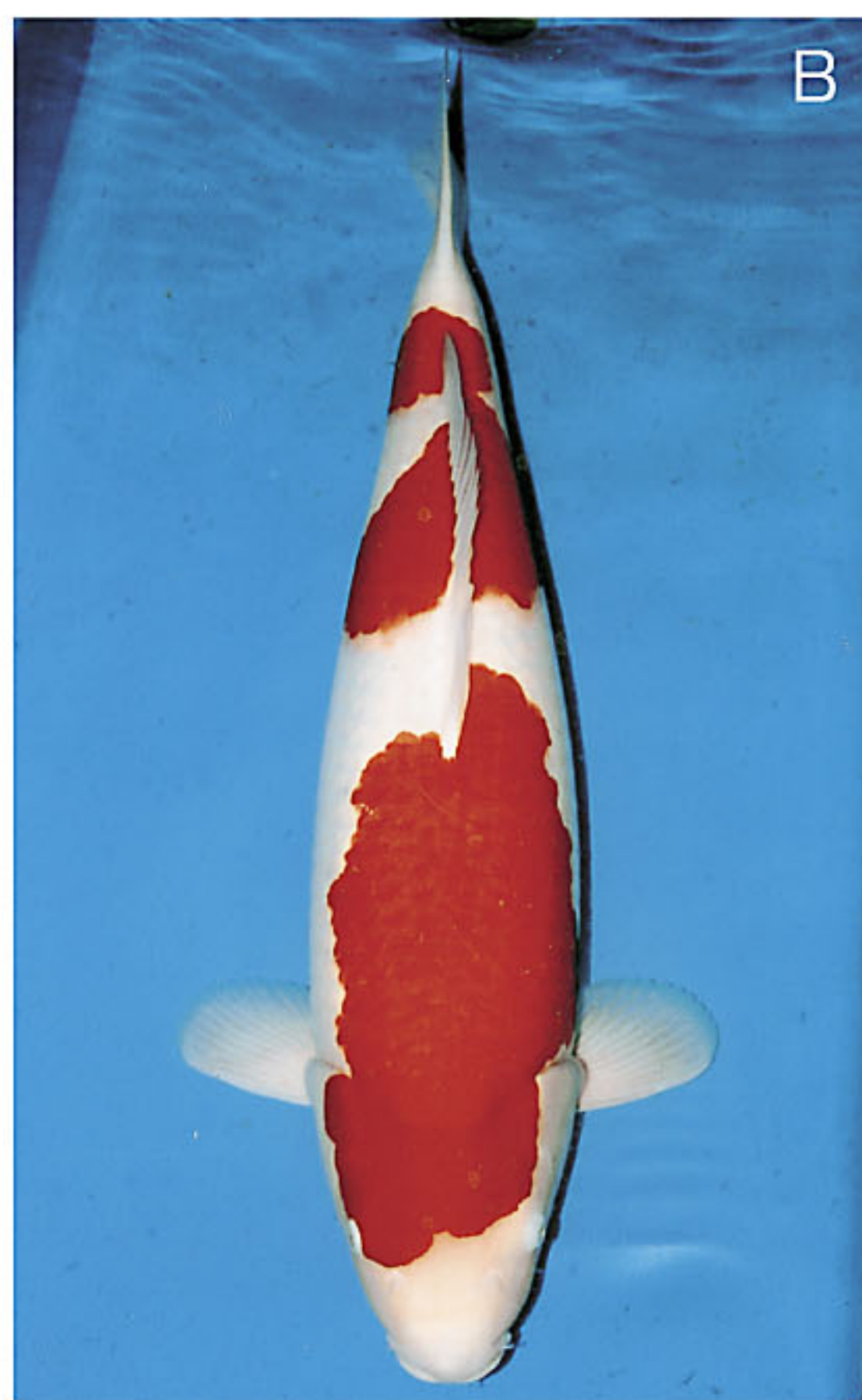
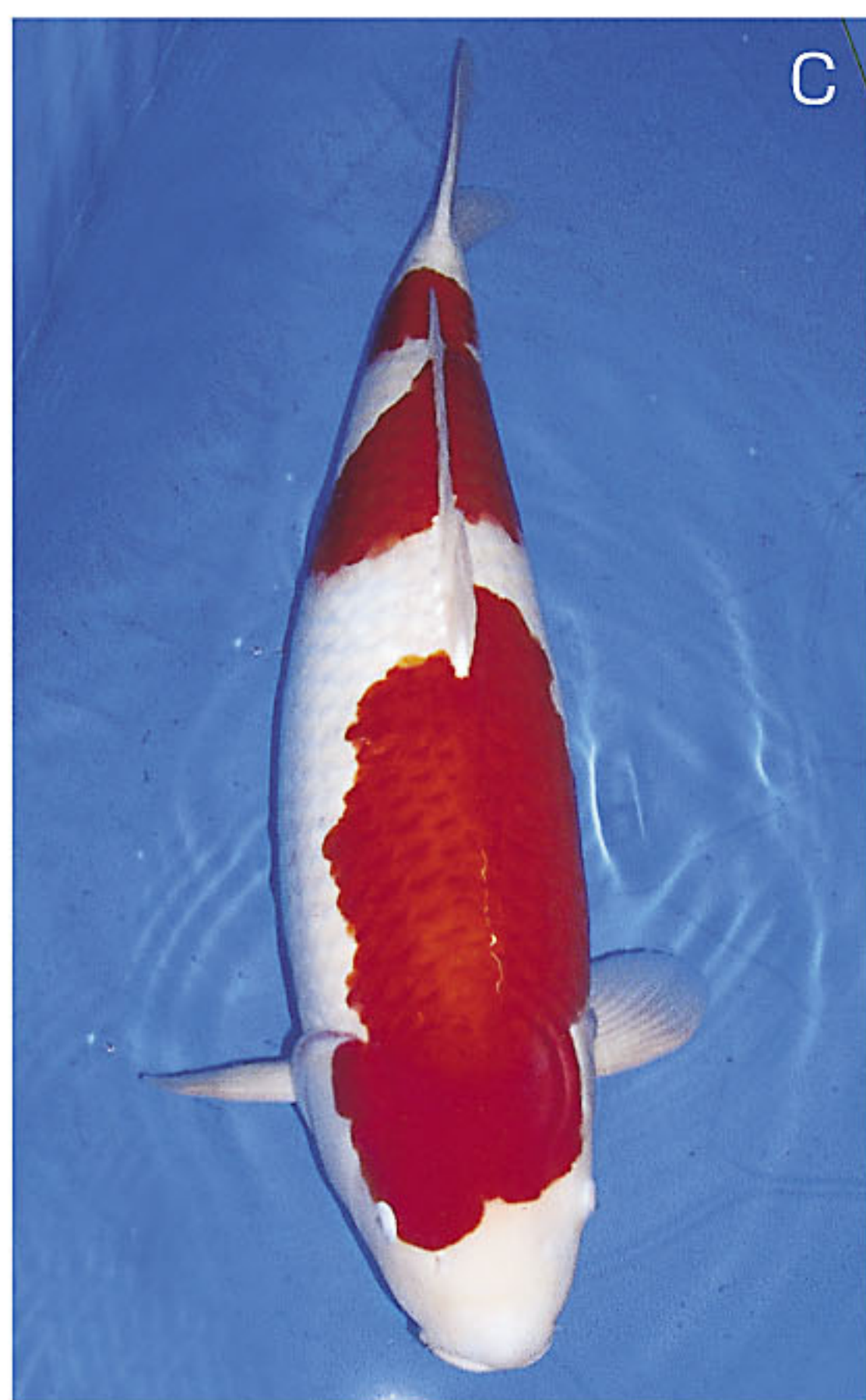
鱗の伸び率でいうとこのへんが一番伸びますし(⑪—B・A ※巻き



⑪／ビューティースマイルの仔



ビューティースマイル



⑫／ビューティースマイルの仔

下がり)、このへんが一番伸びないのですが(⑪—B・イ)、そのあたりで緋模様のバランスもちょうど良くなったんじゃないかなと思います。

もう1本ビューティースマイルの仔の変化を見てみましょう。

これは2才です(⑫—A)。やはり先ほどと同じで細身の鯉でした。模様も単純な二段ですが、切れ込みが入っていることと、背ビレを汚していないということでかなり洗練された紅白です。そして各パーツを見ていただくとわかると思いますが、大くなる要素を兼ね備えた鯉じゃないかなと思います。

これが3才です(⑫—B)。かなり大きくなって3才で74cmになりました。予想以上に大きくなったのでちよつとびつくりしました。目幅も肉が入り、サシも完全に解決しました。単純な二段ですが、切れ上がりによって白地が出てきたので、見映えの良い鯉になりました。

そして今年、新潟の野池でこんなに大きくなりました(⑫—C)。4才81cmです。目指せ1メートル!

(つづく)